
第354回（6月22日開催）公開セミナー

デジュール標準を制して強いビジネスモデルを築く

ー国際標準化戦略のパラダイム転換ー

（財）日本規格協会 国際標準化支援センター 主幹 原田節雄氏

非接触型 I C カードを J R 東日本が導入すれば、国内交通系のデファクト標準になることは予測されていました。2001 年 1 月に J R 東日本はソニーのフェリカをベースにした S U I C A を山手線に導入しようとしていました。東京のラッシュアワーでは改札処理に時間がかかると、改札ゲートが混雑して通勤客が溢れてしまいます。フェリカは他の規格に比べてデータ処理が高速であり、その要件を満たした唯一のカードであったと言えます。

一方で、W T O の政府調達協定では J R 東日本が非接触型 I C カードを採用する場合、それがデジュール国際標準であることが必須でした。ですからソニーも国際標準化機関でのデジュール標準獲得に動きましたがそこに至る道は困難を極めました。（中略）I S O と I E C の合同委員会で情報通信分野の国際標準化を担当する J T C 1 の S C 17 が主戦場となりました。そこでソニーのフェリカの方式であるタイプ C を含む追加規格（タイプ A、B は規格成立済み）の審議中止動議がフランス国内委員会から突如出されました。日本代表団の強行な反対にも関わらず、圧倒的多数で支持されてしまったのです。（中略）欧米勢のロビー活動と妨害工作を見て、私はタイプ C 規格の国際標準化審議打ち切りを覚悟いたしました。そしてほとんど全員がソニーに敵対する S C 17（カード規格分科委員会）の非接触型 I C カード規格審議から、休眠状態に近かった S C 6（通信規格分科委員会）の近接型通信方式（N F C）規格審議へ、密かに主戦場を移すことを決めました。

モバイルスイカは携帯電話機です。I C カードではありません。すでに J R 東日本と N T T ドコモの間で共同開発が進められていたモバイルスイカに、I C カード標準は不要でしたから近接型通信方式（N F C）の規格がとればよかったのです。また、S C 6 と S C 17 は、国内の審議引受団体も、審議する専門家も違います。相互交流がないので S C 6 の審議が S C 17 の委員から妨害を受けることを回避できると判断したのです。

私は S C 17 における C 規格国際標準化審議打ち切り投票を意図的に成功（こちらの意図を知らない欧米勢の望みどおりの審議打ち切り決定）させました。同じ規格を二つの分科委員会で同時に審議することはルール上許されないからです。S C 17 での審議を正式に打ち切り、晴れて S C 6 へと舞台を変えました。この後にも様々な困難が待ち受けていましたが、この戦略変更が、フェリカのデジュール国際標準獲得へとつながったことは間違いありません。することになるので注意を要する。